

井手川内保育園 令和5年度 職員自己評価

— 評価点と課題点、来年度に向けての取り組み —

以上児クラス

★園児一人ひとりとの向き合い方(発達段階に応じた関わり方・言葉がけ)について

- ・玩具などで遊び込むことが難しい子に対して、好きな遊び(個人遊び)をすすめながら、集中して好きなものに対して取り組むように関わりができた。
- ・その子一人ひとりに合った関わり方を心掛けたが、上手くいかない所もあった。言葉がけも「～してはダメ」と言ってしまうことがあり、今後改善していきたい。
- ・一人ひとりの発達段階、性格、好きなこと・ものなどに応じて、向き合うことができた。
- ・自分のタイミングと子どものタイミングが合わず、待たせてしまったことがあったので、子ども主体で関わっていく。
- ・うまく友達の中に入れずにいる子、日頃から気になる子は特に1対1を気にかけて、無理なくその子に対して関わることを出来た。
- ・援助が必要な子や気になる子にどうしても目が行きがちとなり、何でも1人でできる子や落ち着いた子に寄り添ってあげる時間が少なかった。
- ・子どもたちへの指摘が多かった。一人ひとりに合った言葉がけ、事前に防げる場所は先回りして防ぐ、褒める所をたくさん見つけて言葉にすることを改善していきたい。

★園内でのトラブル(怪我・事故・かみつきのひっかき等)への対応、予防について

- ・トラブルを未然に防げるよう目を向けているが、噛みつきが起こってしまったこともあったので、ゆとりを持てるようにしていきたい。
- ・クラス担任が1人の時間帯に園児の引き渡しに出る際は、他のクラスに入ってもらうなど対応していく。
- ・男の子の戦いごっこなどは、ヒートアップする前に声掛けをするなど予防に努めた。
- ・駐車場で遊んでいたとき、車止めに躓いて転び、けがをした子がいた。危ない箇所の確認が不十分だったので、遊ぶ前に再度確認を徹底する。
- ・以上児でもかみつきのひっかきが起こる。子どもの情緒の安定を図れるようにしていく。

★心地よい空間、遊びの空間づくりについて(室内環境への配慮、園清掃)

- ・子どもの主体性(子どもの「したい」「遊びたい」)を尊重し、環境を作っていく。そのためにも子どもとの会話や信頼関係が大切。
- ・あそびのコーナーづくりや廃材を使っての工作など、工夫して環境づくりができた。

- ・子どもたちのその時の興味や遊びに応じて環境づくりを行ったが、同時に物が増え、片付けが上手くできない子もいる。遊びのコーナー作りについては設置を心掛けたが、子どもが落ち着けるスペースづくりも今後改善していきたい。
- ・運動会等の行事の際は、早めの準備を心がける。(草むしり、トラック線引きなど)
- ・清掃等こまめに行うよう心掛けた。目に見えない部分は気づけずにいることも多いので、少しでも時間を作り、取り組んでいきたい。

★保育と計画の評価、反省について

- ・保育は評価・反省をもとに、次への保育につながる時もあった。行事は記録として残すだけではなく、写真など全員が思い出せる方法が必要。保護者の意見も取り入れていく。
- ・子どもたちの興味が湧くような取り組みも多くあったと思う。以上見でのたて割り保育、合同保育での取り組み(こいのぼり制作等)も楽しくできていた。
- ・行事での反省点等を振り返りながら、次の行事計画へ生かすことが出来た。
- ・子どもたちのつぶやきから、おまつりごっこをしたり、運動会や発表会では子どもたちと話し合いをしたり、一緒に制作をしたものを取り入れたりして楽しく参加できた。

★園内の情報共有やチームワークについて

- ・クラス間ではささいなことでも保育者間でよく情報交換や相談ができ、チームワークは十分に取れていたと思う。
- ・クラス内で連携して保育や子どもたちのことを振り返り、嬉しかったこと、改善しなくてはいけないことを話し合った。気づきをその都度、報告するよう努めた。
- ・子どもや家庭の事情等について、園長との情報共有が不十分だった。
- ・通常の連絡はコドモン等において共有されており、うまく対応できていると思う。保護者の家族との連絡が上手くいっていない部分があり、対応がずれてしまうこともあるので、逐一確認をしていくことが必要。
- ・こまめに報告、相談し、チームワークも取れていたと思う。クラス内、園長、主任の話しやすい、親しみやすい雰囲気があるからだと思う。

★家庭との連携や保護者対応について

- ・朝夕の送迎時に保護者の方と会話ができ、情報交換できた。一部の保護者の方とあまり会話が出来ず、不安・心配を与えてしまったことがあった。
- ・担任の代わりに挨拶するときは、その日の出来事(嬉しかったこと・成長したこと・友達とのトラブル・怪我等)を伝えようと心がけた。

- ・送迎時の伝え方から誤解を招いてしまい、不快な思いをさせてしまったことがあった。
保護者の思いを受け止め、チェック表へのコメントもこまめに記入していきたい。
- ・親子の会話のきっかけづくりになればと、毎日の子どもの姿をチェック表に記入した。
保護者の方ともメモでやりとりをし、送迎時に話をするなど、自分なりに工夫ができた。
- ・子どもや園だけの話に関わらず、様々な話ができるのも良かった。

★来年度へ向けて

- ・職員間で連携を取り、子どもたち一人ひとりと関わる時間をしっかり設け、甘えや欲求を受け止め、子どもたちが安心して自分を表現できる環境にしていきたい。
- ・子どものつぶやきや興味のあるものに目を向け、子ども主体の保育ができるよう保育を展開していきたい。
- ・園児だけでなく、保護者支援についても、引き続き丁寧に取り組んでいく。
- ・保護者の思いが上手く受け取れなかったり、意味合いが違ったりすることもある。
まずは、保護者の思いを受け止め、自分にもゆとりを持っていきたい。子どもたちにもゆったり接していきたい。
- ・研修会で言われていた「1叱って、9褒める」に取り組んでいきたい。
一人ひとりと向き合い、子どもたちが楽しく自信をもって過ごせるよう関わっていく。
- ・保育室内外の環境にも目を配り、子どもたちにとって心地よい環境となるよう心掛ける。
- ・園での感染症の流行状況は、コドモンや掲示にて、その都度保護者へ伝えていく。

★園児一人ひとりとの向き合い方(発達段階に応じた関わり方・言葉かけ)について

- ・0歳児はまだお話ができない時期だが、子どもがしたい気持ちや欲求を言葉にして、「○○がしたかったね～」など話をするにより、信頼関係を築けるようにした。
- ・排泄や食事の時、子ども一人ひとりの個々に合った援助をしたり、出来るようになったことを褒めたり、自分でしようとする意欲がでてくるような言葉かけを心がけた。
- ・同じ年齢であっても、一人ひとり発達に差がある。それぞれの様子を見ながら、トイレトレーニングや衣服の出し入れ・着脱など、無理なくすすめるような援助を心がけた。
- ・できるだけポジティブな言葉かけを意識し、実行できた。
- ・生活面では、一人で出来るようになったことなどを情報交換し、クラス内で共通理解を図りながら援助にあたることができた。
- ・「ダメ」などの否定や禁止の言葉をついついかけてしまうことが多かった。急かすような言葉かけにも気をつける。
- ・新入园児の入園により部屋の雰囲気が変わらないよう在園児のフォローも心がけた。
- ・担当でない子の給食がよく把握できていなかったので反省する。
- ・声かけの仕方等、職員間の共通理解のもと保育にあたる必要がある。

★園内でのトラブル(怪我・事故・かみつきのひっかき等)への対応、予防について

- ・玩具や身近にあるものをなんでも口に入れる年齢であるので、啜えたまま走ったり飲み込んだりすることが無いよう、気を付けて見守った。
- ・友達に興味が出てくるとかみつきの多くなる。母親の妊娠や情緒不安定な時にも起こりやすいので、かみつきの発生しやすい時期を把握しながら、そばに付いて未然に防ぐよう心がけた。また、保護者にも発達や時期によってかみつきの多くなることを伝えた。
- ・おもちゃの取り合いや、思いの違いから、かみつきのひっかきが見られた。その日の体調にも留意しながら、落ち着く環境(少人数での遊び、玩具の数や配置の見直し)を作る。
- ・子どもたちが安全に過ごせるよう見守りながら保育をしているが、瞬時に起こるかみつきのひっかきを防ぐことができないこともあった。廊下を散歩したり、1対1で関わって気持ちが落ち着けるように努めた。睡眠不足や機嫌が悪いときは、保育士同士で気づきを共有しながら、特に気にかけて保育にあたっていく。
- ・時々けんか等でひっかきや叩く等などのトラブルはあったものの、大きな事故等がなくて良かった。

★心地よい空間、遊びの空間づくりについて(室内環境への配慮、園清掃)

- ・玩具は適切か(小さすぎないか、壊れていないか)を遊ぶ前、遊んでいるとき、遊んだ後にチェックし、不備があったら修理または処分し、安全に遊べるよう努めた。
- ・玩具をよく口に入れるので、洗浄・消毒等の感染症対策を心がけた。
- ・活動中のあそびは、部屋いっぱいを使って遊ぶことができた。ただ、配膳中・掃除中は十分なスペースを取ってあげられなかったので、あそびの環境作りや室内環境への配慮に取り組んでいきたい。
- ・それぞれの職員が気づいたところを掃除したり、片づけたりできた。パートの先生方に細かなところまでしてもらって感謝している。
- ・保育室、廊下、トイレ、手洗い場など、時間を決めて丁寧に清掃し、清潔で過ごしやすい環境を作るよう心がけた。毎日できない所も定期的にチェックし、出来るときにこまめに掃除して清潔を保てるよう意識した。
- ・柵のぐらつきや破損、また、調乳用の水道ヘッドの取替の改善に時間がかかった。
- ・夏場はトイレが暑く、着脱やトイレトレーニングが上手くできなかった。

★保育と計画の評価、反省について

- ・制作等も子どもの興味や発達に合ったものを計画し、実行することが出来た。
- ・次週の週案を立てながら、クラス内で「〇〇をしたい」等の話し合いを行い、協力しながら取り組むことができた。本やインターネット等を参考にしながら、室内でも子どもたちがストレスにならないよう工夫した。
- ・個人月案を立て、日々の保育を文字にすることで振り返り、反省するいい機会となっている。次の計画に、少しでも生かしていきたい。
- ・行事については、子どもの様子に合わせて事前準備し、楽しむことができた。
- ・行事後は、良かった点や反省すべき点など意見を出し合い、次に生かせるようにクラスでふりかえりをした。

★園内の情報共有やチームワークについて

- ・保護者から聞いたこと、お帳面に書いてある情報を、朝の時点でペアの保育者と共有し、共通理解を図ることが出来た。
- ・保護者からの質問や答えに困ったときは、すぐにペアの職員や主任に相談できた。
- ・クラス内で協力して取り組めた。制作の準備・壁面など、話し合いながら進め、スムーズに行うことができた。
- ・クラス間で子どもの様子(病気や情緒の様子)を共有して対応できた。

- ・園長、主任への報告・連絡・相談はできていた。
- ・他クラスの情報など、一部伝わってこない情報もあるので、園内の職員全体でさらに情報共有を図っていくことが必要だと感じる。
- ・園長との情報共有が不十分だった。

★家庭との連携や保護者対応について

- ・保護者は園での様子を詳しく知りたいと思うので、何をして遊んだ・その時の子どもの反応・お友達との関わり・給食の食べ具合等、詳しく話をして連絡帳に記入した。
- ・子どもの成長を保護者と喜び合うことができた。園での様子を伝えながら、自宅での様子を詳しく聞いて、お互いにコミュニケーションを取ることができた。
- ・保護者に伝えたいこと（子どもの困りごと、情緒不安定な様子、問題行動）をうまく伝えることが難しい部分があった。
- ・連絡帳の記入がなかったり、送迎時に保護者の方が急いでいる場合は、短い時間で端的にメモを取り、聞き忘れの無いようにしていきたい。
- ・自分自身が家庭のことや保護者のことを分かっていない部分があり、どのように話せばいいのかと悩むことがあった。コミュニケーションをさらに取る必要があると感じる。
- ・普段の送迎時のやり取りは担任が行うため、保護者の方たちと直接話す機会はあまりなかったが、家庭での子どもの情報は、連絡帳や送迎の先生に聞いて共有できていた。
- ・保護者との信頼関係を築いた上で、子どもの困り感があることを伝え、家での様子を教えてもらうことなどを心がけた。
- ・子どもの体調不良の際に、保護者との体調面の情報のやり取りの難しさがあった。

★来年度へ向けて

- ・一人ひとり性格も発達も違うため、その子に寄り添った声掛けや対応を考えながら保育園が安心して楽しく過ごせる環境となるよう、クラスで連携しながら取り組んでいきたい。
- ・家庭それぞれの事情を踏まえ、保護者の思いも受け止めながら、子どもにとって一番良い形を一緒に考え、伸ばしていけるように働きかけたい。
- ・保育室内の落ち着いた環境づくりを考えていきたい。どうしても子どもの問題行動に目が行きがちであるが、良いところを褒めていくよう心がける。
- ・子どもが不安な時や話しかけたいときにすぐ対応できるよう、全体を見守っていく。
- ・子ども達に必要な生活習慣が身についていくよう、日々の小さな積み重ねを続けていく。
- ・気づきや要望等についてクラスで話し合い、複数担任での保育について、共通認識を深め

ながら保育にあたっていきたい。

- ・ 様々な状況の保護者がいることに目を向け、園が安心できる場となるよう、保護者に対しての支援を充実していく必要性を感じる。
- ・ 同じ研修や講習を受講することで、保育の方向性が同じ方を向くようにしていきたい。
- ・ 保育者のキャリアアップとして、読書や情報収集などをしながら自己研鑽に努めたい。

★食材の安全、衛生管理について

- ・こまめに手洗い・消毒を行い、清潔を心がけている。
- ・配食時間から逆算して調理するようにしている。
- ・食品や出来上がりの温度、冷蔵庫内の温度などには特に留意して管理している。

★食育計画について

- ・季節の旬の野菜を使った給食を提供している。
- ・子どもが食への関心を持てるような声かけを行っている。
- ・子どもたちの興味に合わせてクッキングにも取り組むことができた。

★食事の提供方法について

- ・調理の前に、離乳食やアレルギー除去食の情報共有ができています。
- ・野菜が苦手な子や飲み込みが難しい子には、食材の切り方を工夫して提供している。
- ・アレルギー児は、保護者に除去表を確認してもらい、個別に配慮しながら実施している。

★献立の工夫について

- ・調理員同士で話し合いながら、苦手な食材を出さないのではなく、どうやったら少しでも食べられるようになるかを考えて献立を立てている。
- ・子ども達の食べる様子を見ながら、喫食状況に応じて献立の変更なども行っている。
- ・同じ食材や調理方法が続かないように工夫している。

★子どもたちの喫食状況について

- ・食具については、保育士の先生とも相談しながら、子ども一人ひとりに合ったもので提供するようになっている。
- ・メニューによって、食事の食べ方や進み方が違うので、残食を見て次回の献立に活かせるよう、話し合いを行っている。

★保育との連携、情報共有について

- ・まだ食べたことが無い食材について、しっかりと情報を共有する。
- ・食事だけでなく、おやつについても、食べやすい量や切り方となるよう取り組む。
- ・子どもの情報共有はしっかりと行っているが、今以上に連携を図っていきたい。

★食を通した保護者支援について

- ・給食だよりを通して、給食のレシピを共有し、子ども達の喫食時の様子を見てもらうことができた。
- ・コドモンで給食の写真を掲載するなど、情報の配信にも取り組んでいきたい。

★来年度へ向けて

- ・苦手な食材などを少しずつでも食べることが出来るように、味付けや切り方の工夫を考えていきたい。
- ・料理の提供に関しては、温度管理をしっかりと行い、アレルギー児については献立表を事前によく確認してから提供する。
- ・今まで作ってこなかったものにも挑戦したい。